

シーズ発掘 ・ シーズ把握

シーズ情報の発信

WEBベースで研究情報の提供

キーワード：シーズ集・情報発信・WEB

本事例の関係者

会津大学
教員
産学イノベーション
センター教職員

文部科学省産学官連携
コーディネーター

シーズ発掘試験を活用して最新情報発信

【要約】

コーディネーターは、会津大学に常駐して以来の懸案であった会津大学シーズ集を作成した。シーズ集には55名の教員の61件の研究成果を収録した。シーズ集は掲載教員数、掲載件数を増やししながら日々更新中である。

【きっかけ】

コーディネーターは、読者に分かりやすい教員のシーズ集をつくりたいと思っていたが、常駐した当初はその機会を得ることができなかった。その後、大学が法人化された平成18年度に、JSTシーズ発掘試験に19件の応募があり、コーディネーターはこれを機に、産学イノベーションセンター（以下UBIC）のセンター長の発案の下、シーズ発掘試験応募内容をベースとして懸案の会津大学シーズ集の作成に取りかかった。

【段取り】

コーディネーターはUBICの教職員と協議し、最初のシーズ集は、第一に読者に分かり易いWEBベースで作成することとした。シーズ題名のもとにシーズ内容を補足する副題を付けた。たとえば、複数の信号を分離する研究シーズ（左図）には、一度に7人の話を聞いたとされる「聖徳太子もびっくり」とする副題である。ページ左半分は「研究の概要」とし、この部分はコーディネーターが理解できる内容を最低条件として教員が作成し、コーディネーターが理解できない部分は教員と協議して修正した。右半分はシーズの応用分野を説明する「実用化の可能性」と「UBICからのメッセージ」とした。難解なシーズは「UBICからのメッセージ」欄でコーディネーターが技術内容を解説し、または、応用分野を加筆して、読者が理解しやすいように配慮した。ページの下半分は「研究概要図」欄を設け、必要な場合には専門家向けの図表を掲載した。ページ最下部にはキャッチフレーズを付けた。たとえば「設備、要員システム」のシーズには「納豆製造から自動車生産まで対応可能」とし、研究内容を端的にアピールできるようにした。

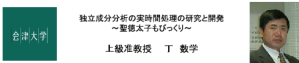
【ポイント】

まず、広報ベースで教員全員にシーズ集作成の協力を依頼した。次にシーズ発掘試験に応募したそれぞれ19名の教員に、コーディネーター等3名が分担してシーズ集の作成を依頼し、全員からシーズの提供を受けた。19件のシーズは、3名が分担して教員と協議し、読者に分かり易い内容に修正した。平成19年度以降は、コーディネーターが一人ひとりの教員の研究室を訪問しシーズを増補した。

【成果・結果や活動後の変化】

現在のシーズ集には教員総数92名のうち55名のシーズ61件が収録され、専門課程では教員68名のうち53名の59件が収録されている。さらに、現時点においても掲載教員数を増やししながら日々更新中である。今後は、非専門課程教員のシーズも掲載・増補を計画しており、そのほかに、ホームページ上で各シーズのヒット数を計数し、どのシーズが関心を集めているかを分析する予定である。

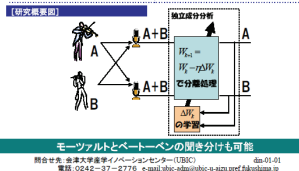
シーズ集は、来訪者や展示会・講演会、さらには提携している金融機関を通じて企業等に配布されており、研究成果の情報発信に役立っているとともに、企業訪問の際の Door Opener（話のきっかけ作り）としても役立っている。シーズ集は内容が分かり易く好評で、シーズ集を見た企業、団体から、教員を指名した技術相談や講演依頼につながっている。なお、会津大学シーズ集へのアクセスは以下の通り：《 会津大学→産学イノベーションセンター→シーズ集 》



独立成分分析の実時間処理の研究と開発
～聖徳太子もびっくり～
止敏 教授 T 数学

【概要】
○複数の人の話を聞き分ける
複数の人が同時に話している時、人の耳にはある特定の人の話し声だけが聴こえることが出来る。本研究は情報処理技術を用いて、これに類似することを達成する。
○「聖徳太子もびっくり」
「聖徳太子もびっくり」という副題は複数の人の話を聞き分けるという研究の成果を表現している。この副題は、この研究成果が非常に面白いと評価されている。また、この研究成果が非常に面白いと評価されている。また、この研究成果が非常に面白いと評価されている。

【UBICからのメッセージ】
○本シーズはこれまでの手法の改良による。社会実装が可能なレベルに引き上げられた。技術的な内容は、本シーズの「実用化の可能性」欄で詳しく説明されている。また、本シーズの「実用化の可能性」欄で詳しく説明されている。また、本シーズの「実用化の可能性」欄で詳しく説明されている。



シーズ集の ページレイアウト

掲載件数の推移

平成18年度 23件
平成19年度 40件
平成20年度 61件

全教員数92名
平成20年4月1日

成功の事例

教員協力で月数回の情報更新が実現

●教員の積極的な取り組みに感謝

シーズ集を作成したほとんどの教員はシーズ提供を快諾してくれた。非常に嬉しいことに、シーズ集に自己の研究シーズを載せて欲しい、と自ら名乗りでた教員（この中には2名の英語教員を含む）や、複数のシーズを提供した教員もいた。また、数学、物理学の教員もシーズ集作成に協力してくれた。このような教員の積極的な協力によりシーズ集は着実にその目的を果たしている。

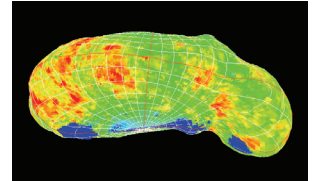
●会津大学シーズ集はWEBベース

会津大学はコンピュータ理工学専門の単科大学である。よってシーズ集はインターネットで見ってもらうことを前提とした。その理由は、①コンピュータ理工学分野は技術革新のスピードが速く、技術の陳腐化が著しいので短期間で改訂版を作成する必要に迫られること、②教員の新しいシーズの掲載、人事異動に伴うシーズの削除、新任教員のシーズの掲載等に対応するためである。なお、これは副次的に経済効果をもたらしたと確信する。

会津大学シーズ集は多い時で月に数回の頻度で掲載シーズを入れ替えている。いつまでに作る、という期限を設けない柔軟な運営が成功の一因かも知れない。（なお、シーズ集の配布はカラーハードコピーで行っている。）

シーズ発掘 ・ ニーズ把握

小惑星イトカワの
明るさを表示



暗  明

シーズ集より

失敗の事例

全教員のシーズ掲載は未達成

●順風満帆？

シーズ集づくりは決して順風満帆でこれた訳ではない。シーズ集の作成を快諾してくれた教員は多かったが、時間をかけて説明した結果作成してくれた教員もいる。締切り期日を過ぎた後、何度かの催促により作成に至った例もある。

シーズ集作成にあまり積極的でないこれらの教員に、どのように協力してもらうかが今後の課題である。当面は、積極的な教員に期待してシーズ集をより充実したものにする計画であるが、全学的規模に広げていくには、さらなる努力が必要である。

●WEBベースの問題点

WEBベースの事例集に拘泥することも課題である。それは展示会などでのシーズの周知を行うためのハードコピーの編集に人的負担を要することである。また、WEB上のシーズ集は改版を重ねていくため、旧版のシーズ集との間のシーズの混同を招くことである。最新情報を混同なく編集するための工夫が必要である。

成功と失敗の 分かれ道

トップダウンの依頼ではなく、コーディネーターがそれぞれの教員にシーズ集作成の協力を求め歩いたことが成功を導く鍵となった。

産学官連携の新たな展開に向けた提言

より分かりやすい研究内容の広報活動推進

●教員には一般向け説明の工夫が必要

教員の研究成果を外部に公表する手段として、第一に学术论文がある。教員が学术论文を最優先に考えることは当然のことであるが、大学の社会貢献が叫ばれて久しい今日では、研究の専門家向け情報だけでなく、一般社会に向けた研究情報の発信も必要である。

この際に求められる条件が、専門的な技術内容を読者が理解できるように翻訳することである。しかし、この翻訳は非常に難しく、多大の時間を要す作業になる。この対策のため、まず、図表を使ったビジュアル性の高い研究成果を掲載することに努め、教員には、一般読者向けに研究活動をPRする機会、およびPRする場を設けることを今後の課題としたい。この機会と場作りはコーディネーターの責務として実施しなければならないことと認識しており、これにより、高い大学の敷居を少しでも低くすることができると思う。

☆コーディネーターの一言

専門的な技術内容を読者に理解できるように説明するのがいかに困難なことか。コーディネーターはこの困難さを教員と協力してシーズ集作りに活かして行く。